



愛知県

理学療法学会誌

JOURNAL OF THE AICHI SOCIETY FOR PHYSICAL THERAPY

プログラム集

第34回愛知県理学療法学会大会

テーマ「多様性に応える理学療法の総合知
— 多彩な視野がもたらす希望と可能性 —」

会期：2026年6月7日(日)

会場：中日ホール&カンファレンス
(中日ビル6F)

主催：特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会

共催：公益社団法人 愛知県理学療法士会

令和8年6月吉日

病院長
施設長
所属機関長 殿

特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会
第34回愛知県理学療法学会
大会長 辻村 康彦



第34回愛知県理学療法学会 出張許可のお願いについて

謹啓

向暑の候、貴職におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は特定非営利活動法人愛知県理学療法学会に、ご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび下記の通り第34回愛知県理学療法学会を開催する運びとなりました。つきましては、ご多忙中に恐縮でございますが、貴職員_____氏の学会大会出張につきまして、各段のご配慮をいただきますよう謹んでお願い申し上げます。

謹言

記

- 開催期日：2026年6月7日（日）10：00～17：25
- 開催場所：中日ホール&カンファレンス（中日ビル）
〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目1番1号
Tel 052-263-7050（受付時間10：00～20：00）
- 内容：一般演題・若手特別セッション・若手デビューセッション・特別講演・大会長講演・教育セミナー等
- 大会事務局：第34回愛知県理学療法学会 大会事務局
NPO 法人愛知県理学療法学会事務局内
TEL：052-972-7211 FAX：052-972-6295
E-mail：apta34@pt-aichi.jp

以上



ごあいさつ

第34回愛知県理学療法学会
大会長 辻村 康彦
(平松内科・呼吸器内科 小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック)

少子高齢化や疾病構造の変化が進む現代において、私たち理学療法士の役割は、この数十年で大きく変化してきました。病院を中心とした医療現場から、介護・在宅・地域・行政、さらに教育や健康増進といった分野へと活動の場が広がり、対応すべき対象も、脳卒中や運動器疾患にとどまらず、呼吸・循環・代謝、精神的健康、社会的孤立といった多様で複雑な課題を抱える方々へと広がっています。

こうした状況の中で、私たち理学療法士に求められているのは、単なる専門性ではなく、他領域と知識を横断・統合し、複雑な課題に対応できる「総合知」です。また、多様な分野で専門性を発揮しながら、多職種と連携し、柔軟で創造的に課題に取り組む実践力がこれまで以上に重要になっています。

このような背景を踏まえ、今回の学会大会では「多様性に応える理学療法の総合知 — 多彩な視野がもたらす希望と可能性 —」をテーマに掲げました。多様な分野で活動する理学療法士が、それぞれの専門性を土台にしながらも、あえてその外側へと踏み出し、知を越境的に結びつけていくこと。まさにそれこそが、次代に求められる理学療法のかたちだと考えます。

さらに、学びそのものもまた多様化しています。紙の文献中心だった時代から、インターネットの普及を経て、今やAI技術の活用に至るまで、学びの手段は大きく進化しています。こうした多様な情報の中から、自らに合った知を選び取り、統合して実践に活かす力が、これからますます求められるでしょう。

本大会では、こうした視点を共有できるよう、多様な立場の方々が交わり、知見を持ち寄る機会となるようなプログラムを鋭意企画中です。特定の分野に偏らない、バランスのとれた構成とすることで、学生や若手理学療法士の方々にも、新たな視点や将来像に出会える場となることをめざしております。

最後に、本大会が、皆様一人ひとりにとって「新しい気づきのある学びの場」となるとともに、今後の理学療法の可能性を共に描き、共有できる一日となるよう、微力ながら全力を尽くしてまいります。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

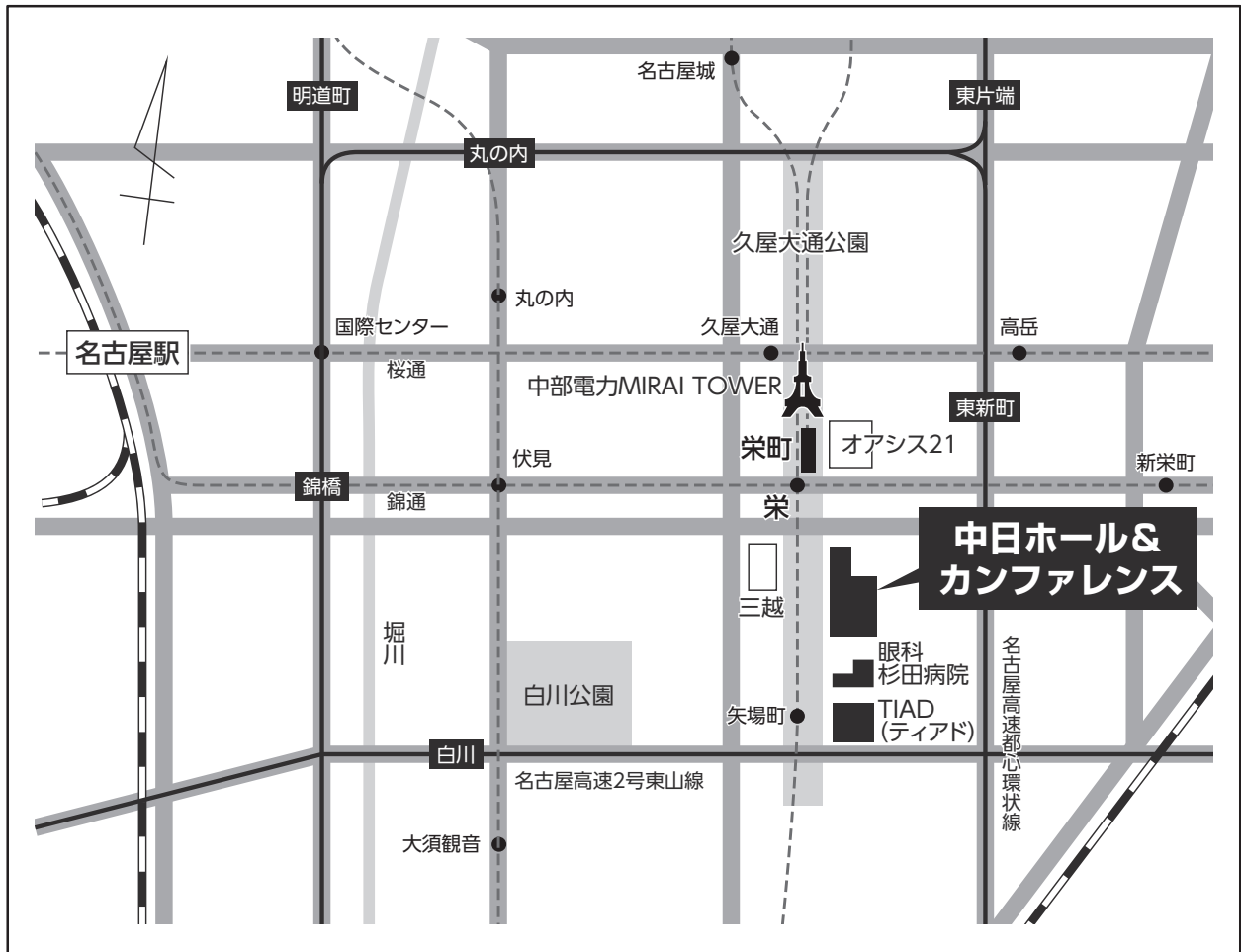
2026年6月7日、中日ホール&カンファレンス(中日ビル6階)にて皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

謹白

目 次

会場への交通案内	1
会場案内	2
参加者へのご案内	3
座長・演者の方々へのご案内	8
日程表	12
プログラム	
❖ 大会長講演	14
❖ 特別講演1	15
❖ 特別講演2	16
❖ 合同企画	17
❖ 特別企画	18
❖ 教育セミナー1	20
❖ 教育セミナー2	21
❖ 教育セミナー3	22
❖ 教育セミナー4	23
❖ 一般演題(口述・ポスター)	24
組織図	37
運営委員	38

会場への交通案内



中日ホール&カンファレンス

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル6階 TEL: 052-262-5311

《電車をご利用の方》

名古屋市営地下鉄東山線「栄」駅から地下街直結
名古屋市営地下鉄名城線「栄」駅から地下街直結
名鉄瀬戸線「栄町」駅から地下街直結
(13番出口横)

《バスをご利用の方》

「栄バス停」下車

《お車で高速道路をご利用の方》

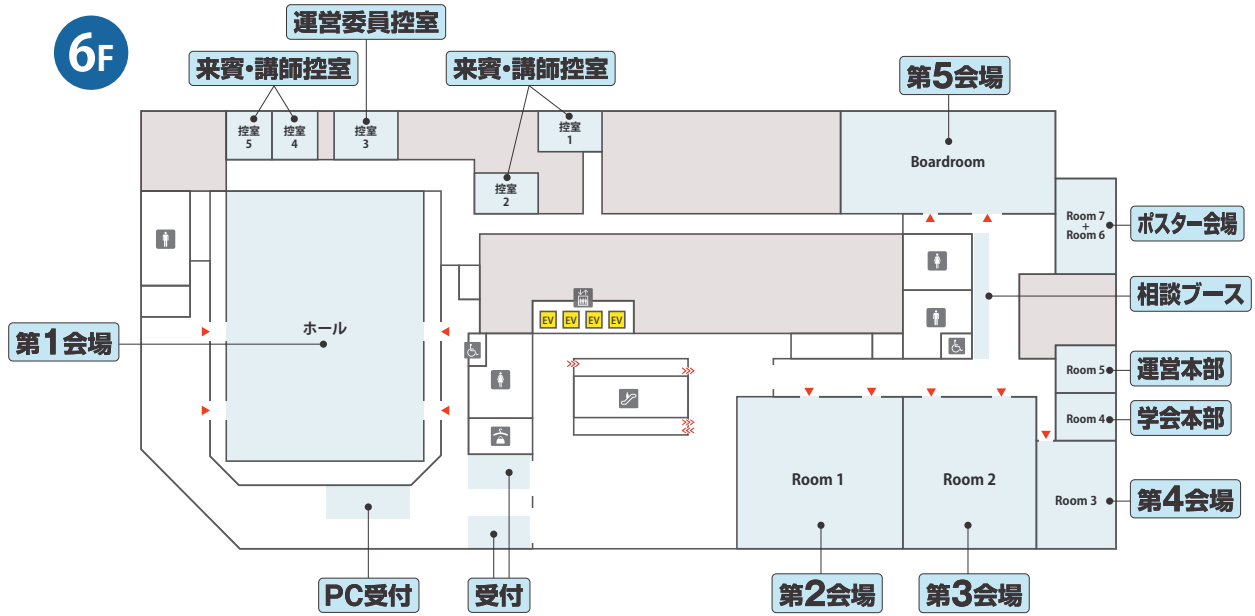
名古屋高速「東新町」出口より約500m

《駐車場》

料金：30分 300円
サイズ：W2,300mm × L5,000mm × H2,100mm 以内
台数：B2F 93台 / B3F 117台 (最大台数)
営業時間：7:00 ~ 24:00



会場案内



参加者へのご案内

■ 参加登録（事前参加登録のみ）

本学術大会への参加をご希望される方は、第34回愛知県理学療法学術大会ホームページにてWeb参加登録の方法を確認し、ご登録をお願いいたします。なお下記に示す申込み期限を過ぎての手続きはお受けできませんので、各自でお気をつけください。

※ 当日の会場では参加登録できません。必ず事前参加登録をお願いします。

■ キャンセルポリシー

決済完了後は、参加費の返金や参加区分の変更を行えませんので、十分にご注意ください。

■ 参加登録方法・参加費・申込期間について

区分	JPTA会員 (卒後2年目以降) ※愛知県士会以外も可	新卒 理学療法士 (2026年3月卒) ※JPTA会員・ 非会員問わず	非会員		
			既卒 理学療法士	他職種	PT養成校 在学生
登録方法	公益社団法人 日本理学療法士協会 マイページから参加登録 【セミナーNo. 158147】	第34回愛知県理学療法学術大会 ホームページ上の 「非会員参加登録」から登録			養成校ごとで 手続き
参加費	3,000円	1,000円	10,000円	5,000円	1,000円
申込期間	(1) カード決済 2026年4月17日～6月4日 (2) 口座振替 2026年4月17日～5月13日 (3) 現金振り込み 2026年4月17日～5月16日 * 現金振込の支払期限： 5月27日まで	2026年4月17日～6月4日 イベントペイシステムを利用して参加登録を受付します。 ※支払方法や支払期限は参加登録先： イベントペイHP及び申込後にイベントペイより届くメールをご確認ください。			養成校ごとで 手続き

※ 本大会が発行する参加費の領収証には、インボイス登録番号が付与されません。

※ JPTA会員の方：申込時に選択した履修目的の変更は協会システム上できませんのでご注意ください。

■ 参加受付について

- 中日ホール ホワイエ 参加受付にて9：15から受付を開始します。
- 参加受付は、日本理学療法士協会会員マイページ専用アプリ「QRコード読み取り機能」を利用しますので、アプリをダウンロードいただいた端末を必ずご持参ください。（事前にログインの確認もお願いします）
- 受付手続きが終わりましたら参加証をお渡しします。参加証はネームホルダーに入れて見えるように着用ください。

■ 教育セミナーについて

本大会では、各領域の第一線で活躍する講師が、「普段あまり関わらない方や、これから関わり始める方に、これだけは押えておいてほしい！」と考える、臨床の勘所や実践的なノウハウを学ぶことを目的に、教育セミナーを行います。教育セミナーの参加は事前の申し込みが必要となります。

※教育セミナー申し込み前に必ず本大会への参加登録をお済ませください。

教育セミナー1：「がんのリハビリテーションに従事する理学療法士が備えておくべき知識・スキルとは～標準的知識とコミュニケーションのTips～」

講師：立松 典篤 先生(名古屋大学医学系研究科 総合保健学専攻 予防・リハビリテーション科学 助教)

教育セミナー2：「脳卒中患者対応の基本視点：明日からすぐに使える臨床のコツ」

講師：内藤 善規 先生(豊橋市民病院 リハビリテーションセンター)

教育セミナー3：「理学療法士なら必ず知っておきたい酸素療法と人工呼吸療法の話」

講師：長江 優介 先生(公立陶生病院 中央リハビリテーション部)

教育セミナー4：「高齢者骨折の“はじめの一步”」

講師：上原 徹 先生(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター)

《教育セミナーお申し込み方法のご案内》

教育セミナーへのご参加には、本大会参加登録とは別に事前予約が必要です。本学術大会HP、もしくは以下のリンクよりお申し込み下さい。

※予約枚数に達したセミナーは選択できないシステムになっております。

教育セミナーのお申し込みはこちらから：

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfPMMdPtzowmztJmgueExUMAjAEoSVsAfhLsU_duQPPNWjUiw/viewform?usp=header



■ 新生涯学習制度におけるポイント・点数取得について

本大会では、新生涯学習制度の登録理学療法士または認定・専門理学療法士の更新に関わる学会参加ポイント・点数と講演受講によるポイント・点数が取得できます。

大会参加：「多様性に応える理学療法の総合知 ～多彩な視野がもたらす希望と可能性～」

時 間：435分

カリキュラムコード：59 活動

ポイント・点数：7.0

大会長講演：「専門領域を越えて ― 多様性と総合知で患者を診ることができているだろうか ―」

講 師：辻村 康彦 先生

時 間：30分

カリキュラムコード：60 社会参加

ポイント・点数：0.5

特別講演1：「医療・医学領域におけるAIの活用とそのリスク ― 理学療法士がAIとどう向き合うか」

講 師：古川 大記 先生

時 間：60分

カリキュラムコード：143 ICT・AIと理学療法

ポイント・点数：1.0

特別講演2：「地域に広がる理学療法士の多様性 ― 介護予防から考える専門職の役割と可能性 ―」

講 師：壹岐 英正 先生

時 間：40分

カリキュラムコード：165 地域医療と理学療法

ポイント・点数：0.5

愛知県理学療法学会×一般社団法人日本基礎理学療法学会 合同企画：「基礎理学療法が拓く臨床理学療法」

講 師：野島 一平 先生

時 間：40分

カリキュラムコード：49 理学療法の基礎領域

ポイント・点数：0.5

特別企画：「多様性を支える国際競技大会における理学療法士の役割 ～2026アジア競技大会・アジアパラ競技大会で発揮される専門性と未来への広がり～」

講 師：平野佳代子 先生
北村麻衣子 先生

時 間：60分

カリキュラムコード：57 機能と構造、身体機能の低下

ポイント・点数：1.0

教育セミナー1：「がんのリハビリテーションに従事する理学療法士が備えておくべき知識・スキルとは ～標準的知識とコミュニケーションのTips～」

講 師：立松 典篤 先生

時 間：40分

カリキュラムコード：115 腫瘍

ポイント・点数：0.5

教育セミナー2：「脳卒中患者対応の基本視点：明日からすぐに使える臨床のコツ」

講 師：内藤 善規 先生

時 間：40分

カリキュラムコード：54 神経・筋機能制御

ポイント・点数：0.5

教育セミナー3：「理学療法士なら必ず知っておきたい酸素療法と人工呼吸療法の話」

講 師：長江 優介 先生

時 間：40分

カリキュラムコード：27 医療安全・安全管理

ポイント・点数：0.5

教育セミナー4：「高齢者骨折の“はじめの一步”」

講 師：上原 徹 先生

時 間：40分

カリキュラムコード：129 老年症候群

ポイント・点数：0.5

※講演受講によるポイント・点数取得希望者の方は、当日、日本理学療法士協会会員専用マイページアプリにてスクリーンに投影される「QRコード」を読み取りいただくことによりポイント(点数)取得が可能です。

■ 会場内でのお願い

- 必ず見える位置に参加証をお付けください。
- スマートフォン等の機器の使用はプログラム進行上の妨げとなりますので電源をお切り頂くか、音の出ない設定にしてください。
- 会場内での通行の妨げとなりますので、歩きながらのスマートフォン等の操作はご遠慮ください。
- 建物内はすべて禁煙です。
- 各会場におけるカメラ・ビデオ撮影(カメラ付き端末を含む)・録音等は、講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のため、禁止させていただきます。

■ 駐車場

本大会として駐車場のご用意はございません。

会場ならびに周辺の駐車場には限りがございますので、極力、公共交通機関をご利用ください。

■ クローク

会場内にクロークはございません。

■ 託児支援制度・同伴者の参加について

会場内に託児室を設けておりませんが、託児支援制度を設けておりますので、希望される方は2026年5月28日(木)までにメール(apta34@pt-aichi.jp)にてご相談ください。予算上限がありますので、検討されている方はお早めにご連絡ください。

本大会では、理学療法士以外の家族の同伴者は無料で参加いただけます(未成年者の監督責任は保護者の方にお願ひします)。同伴者専用のネームホルダーをご準備しますので、総合受付にてお声掛けください。各会場の出入り口に近い場所に、同伴者優先席を設けますので、ご利用ください。発熱や体調不良の場合は参加をお控えください。

■ 相談ブースについて

会期中、第5会場前ホワイエ(ボードルーム前)におきまして、公益社団法人愛知県理学療法士会およびNPO法人愛知県理学療法学会の各部局による相談ブースを開設いたします。

■ 体調管理のお願い

発熱や咳などの体調に不安のある方は、無理にご来場なさらず、ご自身と周囲の安全のため、ご来場をお控えください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

座長・演者へのご案内

■ 座長へのお願い

《全セッション共通》

1. 担当セッション開始20分前までに総合受付にて座長受付を済ませ、セッション開始10分前までに口述については次座長席へ、ポスターについては該当ポスター前へお越してください。
2. 担当セッションの発表が予定時間内に終了するように進行してください。
3. 口述の座長は2名で行います。活発なディスカッションが行えるようご配慮ください。
4. 発表内容が抄録と著しく異なる場合は、演者に対しその場で厳重に注意してください。

《一般演題(口述・ポスター)》

1. 口述は発表時間6分、質疑応答3分です。
2. ポスターは発表時間5分、質疑応答3分、フリーディスカッション10分(全演者の発表終了後からセッション終了時まで)で行ってください。
3. 口述の談話コーナーは準備しておりません。
4. NPO愛知県理学療法学会では、優秀な演題に対し学術大会賞を授与しております。座長は各セッションの中で優秀と判断する1演題を推薦してください。推薦された演題から、愛知県理学療法学会誌へ投稿された論文を基に、NPO法人愛知県理学療法学会理事会で最優秀演題を決定します。なお、ご推薦いただく演題については、愛知県理学療法学会誌の投稿規程(http://aichi-npopt.jp/info_paper.html)をご確認のうえ、倫理的配慮(倫理審査の有無等)や利益相反の開示を含め、論文投稿に必要な条件を満たしているかを事前にご確認くださいようお願いいたします。

《若手セッション》

1. 発表時間6分、質疑応答3分です
2. 各セッション終了後に談話コーナーに移動していただき、質問の受付や座長から演者への助言をお願いします。
3. 本セッションは聴衆や座長から演題に関する助言を得ることを目的としております。したがって座長も通常の質疑応答ではなく、聴衆からの発言が教育的な提案となるような進行をお願いいたします。

《デビューセッション》

1. 発表時間6分、質疑応答3分です
2. 各セッション終了後に談話コーナーに移動していただき、質問の受付や座長から演者への助言をお願いします。

3. 本セッションは経験年数5年まで、かつ学術大会発表経験のない方を対象としております。座長は発表者に対し教育的な配慮をもって質疑応答を促していただくとともに、必要に応じて今後の研究発展に向けた助言をお願いいたします。

■ 口述発表(一般、若手セッション、デビューセッション共通) 演者へのお願い

《プレゼンテーションファイルの提出》

USBメモリに保存したデータを発表30分前までにPC受付へお持ちください。

《受付時間》

6月7日(日) 9:15～15:45

※午後に発表される方もできるだけ午前中にPC受付をお済ませください。早めの受付にご協力をお願いいたします。

《発表当日の注意事項》

1. 一般および若手セッション発表者は、セッション開始5分前まで、デビューセッション発表者はセッション開始10分前までに、次演者席へお越しください。
2. 発表は大会主催者側で準備したWindowsコンピュータを使用していただきます。プレゼンテーションソフトはMicrosoft PowerPointを用い、液晶プロジェクターを使用し発表していただきます。コンピュータの持ち込みは禁止しますのでご了承ください。
3. 発表時、プレゼンテーションファイルの操作は演者自身で行ってください。
4. 発表時間6分、質疑応答3分です。
5. 発表終了1分前に、演台に設置されたランプが緑から黄色に変わり、終了の時点で赤色となります。発表時間の厳守をお願いします。
6. 動画の使用は不可です、静止画のみで作成してください。
7. 発表に用いたファイルデータにつきましては、学術大会終了後に準備委員会が責任をもって破棄いたします。

《プレゼンテーションファイル作成要項》

1. スライドの枚数は制限いたしません、発表時間に収まるように注意してください。
2. プレゼンテーションファイルは、Microsoft PowerPoint 2013以降のバージョンで正常に再生できるよう、互換性を確認した上で保存してください。
3. PCウイルス感染を防ぐため、ファイルは最新アップデートが適用されたコンピュータを使用して作成し、安全なUSBメモリに保存してご持参ください。
4. ファイル名は、「演題番号_演者名」としてください(例:「1_理学太郎」)。
5. 当日Microsoft PowerPoint以外のプレゼンテーションソフトは使用できません。
6. 機種依存文字、外字は使用しないでください。
7. 予め一度保存した発表ファイルを他のコンピュータでも再生可能か動作確認をしてください。

- 上記の内容に従って作成しなかった場合、当日正常にファイルが動かないなどトラブルが生じていても一切責任は負えません。またファイルのトラブルによる時間延長もありませんのでご了承ください。

■ ポスター発表演者へのお願い

《演題発表など当日の注意事項》

- 発表セッション開始5分前までに各自ポスター前に待機してください。当該セッション中はその場を離れないようにしてください。
- 発表時間5分、質疑応答3分、全演題発表後のフリーディスカッションが10分です。
- 発表時間の厳守をお願いします。
- フリーディスカッション終了まで各自ポスター前に待機してください。
- 演者は指定された時間に、各自でポスターを貼付および撤去してください。
ポスター貼付時間 9:15～11:00
ポスター撤去時間 16:10～17:00
- 貴重な研究成果ですので、発表終了後は演者ご自身で責任を持って全てお持ち帰りください。指定時間を過ぎても撤去されないポスターは、やむを得ず大会側で処分いたします。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《ポスター作成要項》

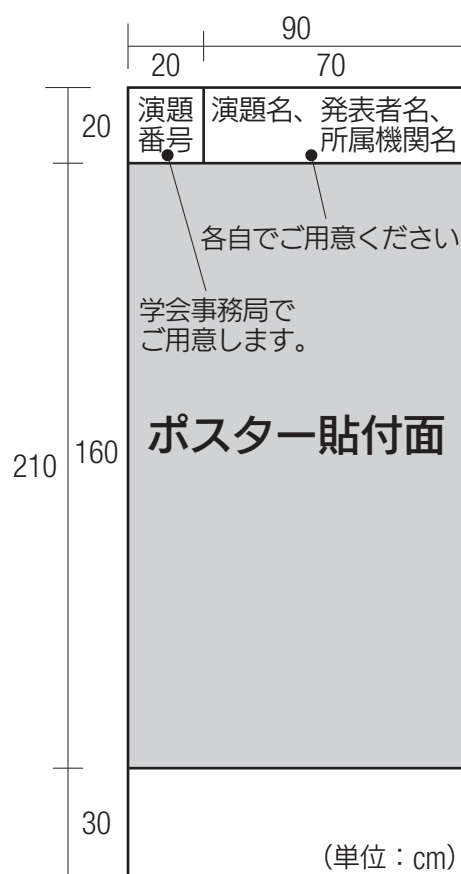
- ポスターの貼付面のサイズ(題名以外)は、縦160cm、横90cmです(ポスター作製見本参照)。
- 演題番号部分を除き、演題名、演者名、所属を縦20cm、横70cmのサイズ内で作成してください。
- パネルの演題番号、ポスター貼付に伴う備品(画鋏など)は大会側で用意いたします。

■ 表彰について

《学術大会賞》

一般演題の優秀な発表の中から愛知県理学療法学会誌に論文投稿された演題が審査され、最も優秀な演題に対し学術大会賞が授与されます。学術大会賞に選出された演題は土会ニュースおよびホームページにて発表いたします。なお表彰は、次回の学術大会にて執り行われます。

【ポスター作成見本】



《学術大会新人賞》

若手セッションの演題の中から、大会準備委員会で選出された演題で「若手特別セッション」が構成され、この中から最も優秀な演題に対し学術大会新人賞が授与されます。表彰は学術大会当日の閉会式で執り行われます。若手特別セッションの発表者は、17時からの表彰式にご参加をお願いいたします。

日程表 6月7日(日)

6F				
中日ホールホワイエ		中日ホール	Room 1	Room 2
受付	PC受付	第1会場	第2会場	第3会場
9:00				
9:15-16:00	9:15-15:45			
10:00				
		10:00-10:15 開会式		
		10:20-10:50 大会長講演 専門領域を越えてー多様性と総合知で患者を診ることができているだろうかー 講師：辻村 康彦 司会：小川 智也	10:30-11:40 口述 【神経1・運動器1】 O2-01～O2-07 座長：谷本 正智 多田 拓生	10:30-11:30 口述 【若手セッション1】 O3-01～O3-06 座長：内藤 善規 小島 隆平
11:00		11:10-12:10 特別講演1 医療・医学領域におけるAIの活用とそのリスクー理学療法士がAIとどう向き合うか 講師：古川 大記 司会：渡邊 文子		
12:00				11:40-12:40 口述 【若手セッション2】 O3-07～O3-12 座長：安井 淳一郎 藤田 玲美
13:00				
		13:10-13:50 特別講演2 地域に広がる理学療法士の多様性ー介護予防から考える専門職の役割と可能性ー 講師：豊岐 英正 司会：辻村 康彦	13:00-14:10 口述 【神経2】 O2-08～O2-14 座長：伊藤 翔太 西ヶ谷 嘉一	13:00-13:50 口述 【若手特別セッション】 OS3-1～OS3-5 座長：上原 徹 成瀬 宏司
14:00		14:00-14:45 研究局主催セッション O1-01～O1-04 座長：藤田 ひとみ		
		15:00-15:40 合同企画 基礎理学療法が拓く臨床理学療法 愛知県理学療法学会×一般社団法人日本基礎理学療法学会 講師：野嘉 一平 司会：石田 和人	14:20-15:30 口述 【内部障害・地域】 O2-15～O2-21 座長：後藤 亮吉 西川 大樹	14:40-15:40 口述 【若手セッション3】 O3-13～O3-18 座長：原田 康隆 今村 祐介
15:00				
		15:50-16:50 特別企画 多様性を支える理学療法士の役割～2026アジア・アジアパラ競技大会～ 演者：平野 佳代子 北村 麻衣子 司会：飯田 博己	15:40-16:50 口述 【運動器2】 O2-22～O2-28 座長：鈴木 惲也 山岸 幸平	15:50-16:50 口述 【若手セッション4】 O3-19～O3-24 座長：柴田 賢一 三嶋 卓也
16:00				
17:00		17:00-17:20 表彰式・閉会式		
18:00				

日程表 6月7日(日)

6F			
Room 3	ボードルーム	Room 6 + 7	ボードルームホワイエ
第4会場	第5会場	ポスター会場	部局PRブース
9:00			
		9:15-11:00	
10:00		ポスター貼り付け	
			10:20-16:50
11:00			相談ブース
11:10-11:50			
教育セミナー1 がんのリハビリテーションに従事する理学療法士が備えておくべき知識・スキルとは～標準的知識とコミュニケーションのTips～ 演者：立松 典篤	11:20-12:20		
	口述【デビューセッション1】 05-01～05-05 座長：飯田 有輝 大西 順子	ポスター閲覧	
12:00			
12:40-13:20			
教育セミナー2 脳卒中患者対応の基本視点：明日からすぐに使える臨床のコツ 演者：内藤 善規	12:35-13:35		
	口述【デビューセッション2】 05-06～05-10 座長：矢澤 浩成 佐久間 俊輔	13:00-13:50	
13:00		ポスター1 P-01～P-05 座長：赤澤 直紀	
13:50-14:30			
教育セミナー3 理学療法士なら必ず知っておきたい酸素療法と人工呼吸療法の話 演者：長江 優介			
14:00		ポスター閲覧	
		14:10-15:00	
	14:25-15:25	ポスター2 P-06～P-10 座長：桑原 基宏	
15:00		ポスター閲覧	
15:00-15:40			
教育セミナー4 高齢者骨折の“はじめの一歩” 演者：上原 徹		15:20-16:05	
	15:40-16:40	ポスター3 P-11～P-15 座長：櫻井 伸哉	
16:00		16:05-17:00	
	口述【デビューセッション4】 05-16～05-20 座長：堀場 充哉 石野 晶大	ポスター撤去	
17:00			
18:00			

プログラム

❖ 大会長講演



専門領域を越えて — 多様性と総合知で患者を診ることができているだろうか —

講師：平松内科・呼吸器内科

小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック 辻村 康彦

司会：愛知淑徳大学 健康医療科学部 医療貢献学科

小川 智也

会場：第1会場(中日ホール)

10:20 ~ 10:50

理学療法の専門分化が進む今日、特定の領域を深く探求し、強みを持つことは言うまでもなく重要である。しかし、私たちが臨床現場で出会うのは、教科書の分類通りに切り分けられた「疾患」ではなく、複雑な身体の悩みと生活背景を抱えた一人の「人」である。

臨床の現実是多様で、決して単純ではない。例えば、主病名が呼吸器疾患であっても、その方の活動を妨げている一番の原因が膝の痛みであることは珍しくない。逆に、骨折の後遺症や麻痺のリハビリテーションを進めたくても、息切れや呼吸機能の低下がボトルネックとなり、思うように運動療法が進まない場面にもよく遭遇する。身体はパーツの寄せ集めではなく、すべてが密接に影響し合う一つのつながりである。それゆえに、「整形外科だから関節の痛みや動きだけを診る」「呼吸器だから息苦しさが一番の原因」といった専門領域“だけ”に縛られた視点では、患者さんが真に望む最終目的、すなわち「生活の中でしっかりと動けるからだ」を取り戻すことは難しくなる。

本大会のテーマである「多様性に応える理学療法の総合知」とは、単に知識を増やすことではない。自らの専門を軸としながらも、あえてその境界を越え、他領域の視点を柔軟に取り入れて統合する臨床思考の力を指す。主病態を掘り下げる「深さ」と、身体全体を丸ごと捉える「広さ」。この両方がある初めて、私たちは患者さんの抱える本当の課題にたどり着くことができる。

本講演では、一つの専門領域に安住せず、その外側へ一歩踏み出すことで拓かれる理学療法の可能性についてお話ししたい。AIがどんな知識もすぐに教えてくれる時代だからこそ、情報を繋ぎ合わせて一人の人生を支える「総合知」の価値を共に考えたいと思う。

私たちは主病名“だけ”に縛られず、多様性と総合知を持って、真に患者を診ることができているだろうか。

❖ 特別講演1



医療・医学領域におけるAIの活用 とそのリスク — 理学療法士がAIと どう向き合うか

講師：名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター

古川 大記

司会：公立陶生病院 中央リハビリテーション部

渡邊 文子

会場：第1会場(中日ホール)

11:10 ~ 12:10

近年、ChatGPTなどの生成AIや、古典的AIの一種である機械学習は、画像診断の補助、電子カルテの自動要約、疾患リスクの推定など、医療現場の周辺業務を中心に急速に広がっている。研究・教育の場でも、論文の要点整理、翻訳、資料作成に使われ始め、臨床家が本来の思考や対話、判断に時間を割ける環境づくりに役立つ可能性が示唆されている。

一方でAIには注意点がある。まず、事実と異なる内容を、もっともらしい文章で提示してしまうことがある(ハルシネーション)。また、医療者なら「当たり前」と思っている重要な前提条件が抜けてしまったり、患者の背景や感情といった「文脈」が反映されにくい。さらに、医療者が便利さに慣れるほど「考えずにAIに任せる」状態になり、臨床推論や洞察が弱まる危険もある。

理学療法領域でも、動作・歩行動画、音声、ウェアラブル機器のデータ解析などにより、評価や治療支援、在宅リハビリの支援、個別化プログラム提案が進む可能性が高い。

本講演では、演者の呼吸器領域でのAI開発やオンライン診断・モニタリングシステム構築の経験を例に、AIが得意なこと／苦手なこと、結果の確かめ方(検証)、データの偏り(バイアス)、個人情報とセキュリティ、そして「誰が最終責任を持つか」をわかりやすく整理する。そのうえで、AIを便利な“道具”として活用しながら、専門職としての判断を守るための距離感と、実践的なポイントを考えたい。

❖ 特別講演2



地域に広がる理学療法士の多様性 — 介護予防から考える専門職の役割 と可能性 —

講師：医療法人瑞心会 渡辺病院 リハビリテーション科
壹岐 英正

司会：平松内科・呼吸器内科
小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック 辻村 康彦

会場：第1会場(中日ホール)
13:10～13:50

日本における理学療法士の多くは、医療保険や介護保険制度のもとで臨床業務に従事しています。皆保険制度は国民にとって重要な社会基盤であり、私たち理学療法士の多くはその枠組みの中で専門性を発揮してきました。しかし、少子高齢社会が進行する現在、医療や介護のみで人々の生活を支えることには限界も見え始めています。重度化を防ぎ、できるだけ長く自分らしい生活を続けるためには、保険内の「治療」だけでなく保険外の「予防」の視点がこれまで以上に重要になります。

一次介護予防の多くは地域を基盤とした取り組みとして展開されており、医療機関の外にも理学療法士が関与できる場が存在します。そこでは対象者は「患者」ではなく「生活者」です。医師の処方依存せず、自らの専門的判断に基づいて関与することが求められます。自由度が高い一方で、専門職としての責任や倫理観も強く問われる領域であり、理学療法士の役割の多様性がより明確になる場でもあります。

本講演では、演者が学生時代に地域リハビリテーションに関心を抱いた経験や、地域で活動してきた先達や自身の実践を紹介します。また、地域における介護予防の制度的枠組みと具体的な実践例を示し、理学療法士がどのように関与できるのかを整理します。さらに、病院や介護保険関連施設で働きながら地域の保険外活動に関わる現実的な方法についても提示する予定です。

理学療法士の働き方には様々な選択肢があります。本講演では、その多様なあり方を前提としながら、現在の職場に軸足を置きつつ地域とつながる方法について共有したいと思います。今は病院で目の前の患者さんに全力で向き合っている皆さんにとって、地域はまだ遠い存在かもしれません。しかし、理学療法士の専門性は、保険外でも確実に求められています。本講演が、皆さん自身の可能性を少し広げ、「自分はどこまで社会に関われるのか」を考えるきっかけとなれば幸いです。

❖ 合同企画



基礎理学療法が拓く臨床理学療法 愛知県理学療法学会大会×一般社団法人 日本基礎理学療法学会

講師：名古屋市立大学医学部 保健医療学科

野蔭 一平

司会：名古屋葵大学医療科学部 理学療法学科

石田 和人

会場：第1会場(中日ホール)

15:00 ~ 15:40

歩行などのダイナミックな動作の獲得は重要な理学療法介入の対象であるが、その評価や介入は筋力や関節可動域など身体機能に焦点を当てたものが中心であり、動作を制御する神経機構の視点は十分に活用されているとは言い難い。本講演では、神経生理学的所見に基づいた新しい理学療法の可能性について我々の研究を中心に紹介する。これまで我々は、ヒトの歩行を支える神経筋ネットワークに着目し、筋シナジー解析や脳筋ネットワーク解析などの手法を用いて、歩行や立位における神経制御機構の解明を進めてきた。これらの研究は、動作障害の背景にある生理学的要因を理解するだけでなく、神経制御能力を標的とした新たなリハビリテーションの開発につながる可能性を示している。本講演では、これまでの研究成果を紹介するとともに、臨床に新しい視点をもたらす基礎的知見の蓄積の重要性について議論したいと考えている。また、最新の研究知見を共有する場として開催される第31回基礎理学療法学会学術大会(名古屋)の取り組みについても紹介する。本大会では、マーカーレスモーションキャプチャーを体験できるハンズオン企画や、臨床に直結するスキルアップセミナーなど、多彩なプログラムが予定されている。基礎研究と臨床をつなぐ議論の場として、多くの理学療法士の参加を期待したい。

❖ 特別企画

多様性を支える国際競技大会における 理学療法士の役割 ～2026アジア競技大会・アジアパラ競技大会で 発揮される専門性と未来への広がり～

講師：井戸田整形外科名駅スポーツクリニック

平野佳代子

愛知県青い鳥医療療育センター

北村麻衣子

司会：愛知医科大学病院 リハビリテーション部

飯田 博己

会場：第1会場(中日ホール)

15:50～16:50



理学療法士が国際競技大会に関わるという選択 — 支援の歩みとその意義を問い直す

井戸田整形外科名駅スポーツクリニック

平野佳代子

理学療法士の活動領域は医療・介護にとどまらず、地域支援、産業保健、スポーツ現場などへ広がりをみせている。その中で、2026年度に開催されるアジア・アジアパラ競技大会への参加は、理学療法士が専門性を社会へどのように発揮し、どの領域へ貢献していくのかを選択する重要な機会となる。本大会では、トップアスリートが最高のパフォーマンスを発揮するための高度な知識・技能に加え、競技特性を踏まえた迅速かつ適切な判断が求められる。さらに、パラアスリート支援では、個々の機能特性に応じた精緻な介入が不可欠であり、理学療法の本質と専門性が問われる場でもある。多様なキャリアパスが存在する現代において、国際競技大会への参画は専門性の深化と社会的役割の再定義につながる重要な選択肢である。本シンポジウムでは、理学療法士が国際競技大会に関わる意義と、その選択が専門職としての成長にいかに関与するかを考察する。



パラスポーツ支援における理学療法士の役割 — 多様な身体と可能性を支える視点 —

愛知県青い鳥医療療育センター 北村麻衣子

パラスポーツ支援における理学療法士の役割は、機能回復や障害予防に限定されるものではなく、多様な障害特性を有するアスリート一人ひとりの身体機能を評価し、競技特性および生活背景を踏まえた包括的なコンディショニングを構築することが求められる。また、スポーツというツールを通して、リハビリテーションの目的である「社会参加と自立」の実現を支援する点にも意義がある。重要なのは、「できないこと」に焦点を当ててではなく、「何ができるか」「どのようにすればできるか」「どこまでできるか」を念頭に、「可能性を最大限引き出すためにはどうしたら良いか」と考える視点を持つことである。

誰もが運動ができ、参加できる環境づくりなど共生社会の実現に寄与することは、理学療法士の価値を高めることにつながっていくと考える。

❖ 教育セミナー1



がんのリハビリテーションに従事する 理学療法士が備えておくべき知識・ スキルとは ～標準的知識とコミュニ ケーションのTips～

講師：名古屋大学医学系研究科 総合保健学専攻

予防・リハビリテーション科学

立松 典篤

会場：第4会場 (Room 3)

11:10～11:50

近年のがん医療の進歩は目覚ましく、「がん=死」という時代から「がんとともに生きる」時代へと変遷している。その一方で、がんの進行もしくはその治療経過の中で生じる身体的機能低下や精神・心理的苦痛は、がん患者の日常生活やQOLを著しく阻害する要因となる。こうした背景から、「がんのリハビリテーション(以下、がんリハ)」のニーズが高まっており、それらを担う専門職としての理学療法士への期待もかつてないほど高まっている。

しかし、本邦の理学療法士養成課程において、がんリハを体系的に学習する機会は未だ限定的であり、多くは卒後の臨床経験を通じて知識を補完しているのが現状である。そのため、がん医療の高度化に伴う病態把握の難しさや、患者心理への配慮、コミュニケーションの困難感から、がんリハに対して苦手意識を抱く理学療法士も少なくない。

本セミナーでは、がんリハに従事する理学療法士が標準的に備えておくべき知識とスキルを整理し、臨床現場ですぐに活用できるコミュニケーションの要点(Tips)を共有する。

❖ 教育セミナー2



脳卒中患者対応の基本視点： 明日からすぐに使える臨床のコツ

講師：豊橋市民病院 リハビリテーションセンター

内藤 善規

会場：第4会場 (Room 3)

12:40～13:20

脳卒中の急性期では病態の変動が生じやすく、重症例では肺炎などの合併症を生じることが珍しくない。病態・合併症の理解や離床時に病態を悪化させないように背景疾患の知識や評価が必要となるため、急性期脳卒中に対して理学療法士が苦手意識を感じやすいと推測される。また、脳卒中理学療法におけるリスク管理は急性期で実施されていれば十分とは言い難い。脳卒中後の不活動は再発に繋がることが知られており、急性期を過ぎた後も背景疾患に基づいてリスク管理を行い介入する必要がある。これらのことから、急性期のみならず各病期の理学療法士が再発予防や背景疾患に基づいたリスク管理に関して理解を深めることは、脳卒中患者の診療の質の向上において大変有益であると考えられる。本講演では、久しぶりに脳卒中患者を担当して診療に不安のある急性期の先生方、再発予防や背景疾患に基づいたリスク管理について知っておきたい回復期・生活期の先生方には是非お聞き頂き、明日からの臨床に生かして頂ければ望外の喜びである。

❖ 教育セミナー3



理学療法士なら必ず知っておきたい 酸素療法と人工呼吸療法の話

講師：公立陶生病院 中央リハビリテーション部

長江 優介

会場：第4会場 (Room 3)

13:50～14:30

酸素療法や非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) を含む人工呼吸療法は急性期や回復期などの病院内での使用にとどまらず、在宅における慢性呼吸器疾患や神経筋疾患に対する呼吸管理としても使用されており、理学療法士が酸素や人工呼吸器のデバイスを使用している患者を担当する機会は多い。

これらのデバイスは、酸素化や換気の改善および呼吸仕事量の軽減など様々な生理学的効果を有する。理学療法中も、各デバイスの特性を知り適切に選択できれば、呼吸困難や運動誘発性低酸素血症を軽減させ理学療法を円滑に進める一助となり得る。一方で、理学療法中は動作や運動により安静時とは呼吸様式が変化するため、酸素投与量の適正化、呼吸補助筋使用、換気量および人工呼吸器との同調性などに注意しながら介入する必要がある。

今回のセミナーでは、酸素療法および人工呼吸療法中の患者に理学療法を行う際に、留意すべき点について概説したい。

❖ 教育セミナー4



高齢者骨折の“はじめの一步”

講師：名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

上原 徹

会場：第4会場 (Room 3)

15:00～15:40

高齢化が急速に進む日本では、骨粗しょう症や転倒に起因する骨折が増加し、理学療法士が関わる機会はますます多くなっています。特に大腿骨近位部骨折や椎体骨折は、要介護状態の主要な原因であり、若手療法士にとって学ぶべき重要テーマです。また、骨折後の理学療法では、局所の評価だけでなく、栄養・認知機能・併存疾患など全身状態の把握が不可欠です。本セミナー「高齢者骨折のはじめの一步」では、担当する患者の状態を把握するためにどのような情報を確認・収集すればよいのか、高齢者に多い骨粗しょう症や併存疾患が骨折リスクにどのように影響するのかを整理します。さらに、治療介入において押さえるべきポイントと注意点を整理し、明日からの臨床に直結する“最初の一步”となる実践的視点を提示します。

❖ 一般演題 (口述)

2026年6月7日 (日)

口述【研究局主催セッション】 第1会場 (中日ホール) 14時00分～14時45分
座長：名古屋市立大学 藤田ひとみ

- O1-01 認知機能に対する 有酸素運動とレジスタンストレーニングの効果
～ FNDC5/Irisin/BDNF 経路に基づく比較研究～
藤田医科大学病院 井澤 翔
- O1-02 中重度脳卒中片麻痺者に対する高速度 Robot Assisted Gait Training の効果
— ランダム化クロスオーバー試験 —
鵜飼リハビリテーション病院 山田 将成
- O1-03 定量的評価機器を用いた反復末梢神経磁気刺激による痙縮抑制および筋力増強効果の検証
藤田医科大学病院 伊藤 翔太
- O1-04 足趾動作解析におけるマーカレスモーションキャプチャと光学式モーションキャプチャ
の一致度の検討
国立長寿医療研究センター 片山 裕崇

口述【神経1・運動器1】 第2会場 (Room 1) 10時30分～11時40分
座長：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 谷本 正智
東海記念病院 多田 拓生

- O2-01 床からの移乗動作を獲得した運動完全対麻痺者3症例の実践報告
中部労災病院 本村 聖也
- O2-02 腰椎後方除圧術後内反尖足の短下肢装具選定に歩行適性より装具装着自立を優先した一例
一宮市立木曽川市民病院 上川 慶
- O2-03 小刻み歩行に対して歩行補助具の使用が歩行速度に及ぼす影響
社会福祉法人博寿会 やすらぎの里 船本 浩史

- O2-04 脊髄内上衣腫摘出術後に対麻痺を呈した患者への理学療法の経験
名古屋大学医学部附属病院 井上 将輝
- O2-05 後脛骨筋腱鞘炎に対する足底挿板療法で母趾圧着力が改善した一症例
平針かとう整形外科スポーツクリニック 上川慎太郎
- O2-06 左THAを施行し術前から残存する腰部痛に股関節可動域と骨盤・脊柱アライメント改善が効果的であった1症例
名古屋整形外科人工関節クリニック 加藤 磨周
- O2-07 腫瘍用人工膝関節置換術後の代償歩行に対するウェルウォーク介入の効果
医療法人仁医会 あいちリハビリテーション病院 坂部 泰

口述【神経2】 第2会場 (Room 1) 13時00分～14時10分

座長：藤田医科大学病院 伊藤 翔太
医療法人財団善常会 善常会リハビリテーション病院 西ヶ谷嘉一

- O2-08 脳卒中片麻痺者の杖使用に伴う課題の実態：アンケート調査による記述統計およびテキストマイニング解析
シュポーン株式会社 小桑 隆
- O2-09 姿勢調節に着目することでリーチ動作が改善した慢性期脳卒中右片麻痺者の一例
株式会社ONZiii Act おんじいのへや知立店 塚本 訓崇
- O2-10 Virtual Reality技術の応用によりバランス能力が改善した小脳梗塞の一症例
偕行会リハビリテーション病院 吉村 真世
- O2-11 視床出血患者における視床皮質路領域の損傷度と表在・深部感覚機能予後との関係
医療法人偕行会 偕行会リハビリテーション病院 澤島 佑規
- O2-12 感覚性運動失調症に対し視覚代償とトレッドミルを併用した歩行練習により歩容が改善した脊髄梗塞の一例
社会医療法人宏潤会 大同病院 熊谷 健人

O2-13 身体機能に対して心理変化の乖離が生じた急性期脳卒中の一症例
医療法人医仁会 さくら総合病院 早川 稔記

O2-14 重度運動麻痺を呈した慢性期脳出血患者に対して移乗介助量軽減目的に
ロボット支援歩行練習を実施した一症例
株式会社豊通オールライフ 尾崎 祐輔

口述【内部障害・地域】 第2会場 (Room 1) 14時20分～15時30分

座長：JA 愛知厚生連足助病院 リハビリテーション室 後藤 亮吉
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 西川 大樹

O2-15 初期疼痛がもたらす不安とコルセット常用の悪循環
名古屋医健スポーツ専門学校 川出 知樹

O2-16 Mobile healthにおける生活習慣改善支援プログラムが血糖コントロールに及ぼす
効果の異質性
株式会社PREVENT 白石 涼

O2-17 介護保険における自立支援に対する職種間比較と連携の在り方について
医療法人生寿会五条川リハビリテーション病院 浅井 俊博

O2-18 壮年期の心不全合併末期腎不全患者に対する段階的運動負荷調整を行った経験
藤田医科大学ばんだね病院 加藤 清史

O2-19 心不全の病態変化の把握に心肺運動負荷試験の指標の変化が有用であった
拡張型心筋症の1例
藤田医科大学病院 伊藤 杏珠

O2-20 理学療法士主導による勤務表転記業務の効率化
— 生成AIを用いたアプリ内製化とDXの効果検証 —
重工大須病院 安井淳一郎

O2-21 地域在住高年女性に対する動作速度を高めた複合運動の長期効果

— 36ヶ月追跡による機能維持効果と実践的意義 —

名古屋葵大学 加藤 芳司

口述【運動器2】 第2会場 (Room 1)

15時40分～16時50分

座長：三仁会訪問看護ステーションぷらす 鈴木 惇也
名古屋徳洲会総合病院 山岸 幸平

O2-22 大円筋による腋窩神経の絞扼に対して超音波診断装置による動態評価が有用だった一症例

肩とひざの整形外科 早崎 泰幸

O2-23 肩関節鏡視下手術後3ヶ月における術翌日からの外来リハビリテーションと従来法の臨床スコアの比較

肩とひざの整形外科 丹羽 雄大

O2-24 オルガン演奏時に生じた上肢症状に対し腰部骨盤帯の機能改善が奏功した一症例

朝日が丘整形外科 上野滉二郎

O2-25 膝前十字靭帯再建術後におけるACL-RSIの術前から術後1年までの縦断的推移

よだ整形外科 田岡 葵

O2-26 宗教的信条により観血療法を拒否した大腿骨頸部骨折の理学療法経験

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 永田 達也

O2-27 下肢装具の継続的使用を支える体制構築に向けた当法人内における下肢装具の実態調査

医療法人社団喜峰会 東海記念病院 平岩正太郎

O2-28 同側の寛骨臼骨折を伴う大腿切断患者に対して待機的に大腿義足を作成し歩行獲得に至った症例

JA愛知厚生連 海南病院 亀山 祐

口述【若手セッション1】 第3会場 (Room 2)

10時30分～11時30分

座長：豊橋市民病院 リハビリテーションセンター 内藤 善規
JCHO 中京病院 小島 隆平

O3-01 発症早期のロボット支援歩行練習が体幹機能および日常生活動作の改善に寄与した
重度片麻痺の一症例

トヨタ記念病院 水野 遥

O3-02 左片麻痺患者に対する理学療法の一考察 — 段差昇降動作の自立を達成した症例 —

医療法人愛生館 小林記念病院 保田 実桜

O3-03 軽度左片麻患者に対して、メトロノームとIVESを併用し歩容改善に至った症例

医療法人三九会 三九朗病院 佐宗 遥輝

O3-04 Spastic movement disorderを呈する脳卒中片麻痺者に髄腔内バクロフェン療法を施行し
歩行練習を実施した一例

鵜飼リハビリテーション病院 森 海渡

O3-05 Shared Decision Makingを用いた介入が奏功した恐怖感を訴える血栓化巨大脳動脈瘤の
一症例

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 浅野 蒼葉

O3-06 歩行時に両膝関節過伸展を認めた栄養障害性ニューロパチーの1例

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 中島 拓海

口述【若手セッション2】 第3会場 (Room 2)

11時40分～12時40分

座長：重工大須病院 安井淳一郎
星城大学 藤田 玲美

O3-07 膝深屈曲運動により正座・しゃがみ動作が獲得できた脛骨高原骨折の一症例

光生会赤岩病院 加藤 大貴

O3-08 投球時に肩鎖関節部由来の疼痛が生じたと考えられた一症例

みどり整形外科運動器クリニック 酒井 怜吏

- O3-09 膝前十字靭帯再建術後患者における術後早期の筋活動を評価した症例
医療法人桂名会重工大須病院 大竹 来実
- O3-10 外来リハビリテーションによる muscle health の促進が社会参加の獲得につながった
サルコペニア高齢者の一例
国立長寿医療研究センター 水谷 梨那
- O3-11 体重減量を目的とした術前リハビリテーションにより運動習慣を獲得し減量に至った
人工膝関節全置換術の1例
国立長寿医療研究センター 進藤 拓斗
- O3-12 懸架式免荷装置を併用したリハビリテーションにより義足歩行を再獲得した
片側大腿・対側下腿切断の一例
さくら総合病院 江崎 晃司

口述【若手特別セッション】 第3会場 (Room 2) 13時00分～13時50分
座長：名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 上原 徹
さくら総合病院 成瀬 宏司

- OS3-01 化学放射線療法中のリハビリテーション介入により歩行再獲得したDown症を有する
松果体胚細胞腫症例
名古屋大学医学部附属病院 杉浦 凜帝
- OS3-02 PS4のB細胞性リンパ腫に対してリハビリテーション治療が奏功した一例
愛知医科大学病院 岡本 希紅
- OS3-03 膝関節深屈曲制限に対し膝窩筋への介入が有効であった3症例
— subpopliteal fat body の動態に着目して —
平針かとう整形外科スポーツクリニック 岡田 康平
- OS3-04 日帰り肩鏡視下手術後3ヶ月の他動屈曲可動域に影響する因子について
肩とひざの整形外科 山下 航基

OS3-05 急性心筋梗塞後の重症心不全合併により動作負荷に難渋した1例

公立陶生病院 角田 光

口述【若手セッション3】 第3会場 (Room 2)

14時40分～15時40分

座長：中部労災病院 原田 康隆

安城更生病院 今村 祐介

O3-13 重複障害を呈した高齢頸椎症性脊髄症患者のシングルケーススタディ

— 在宅復帰における理学療法の成果と限界 —

医療法人瑞心会 渡辺病院 蔦木 愛梨

O3-14 Overwork weakness に注意した負荷量設定により可及的早期に復職を実現した
重症筋無力症の一症例

トヨタ記念病院 山田 芙侖

O3-15 ハンドヘルドダイナモメーターとトレッドミルを活用し過用防止を図った
ギランバレー症候群の一症例

医療法人三九会 三九朗病院 島袋恵一朗

O3-16 両下肢不全麻痺に対し脊髄損傷へのアプローチを参考にリハビリテーションを行った
脊髄海綿状血管腫術後症例

名古屋大学医学部附属病院 高橋 佐和

O3-17 介助依存的な患者に対して早期からの参加目標と段階的な活動目標を定期的に
設定した経験

さくら病院 川上 大貴

O3-18 転移性脊椎腫瘍による病的骨折術後症例の歩行再獲得を目指した
長期リハビリテーションの経験

藤田医科大学ばんだね病院 水野 弘聖

口述【若手セッション4】 第3会場 (Room 2)

15時50分～16時50分

座長：名古屋ハートセンター 柴田 賢一
公立陶生病院 三嶋 卓也

-
- O3-19 脛骨高原骨折術後の膝伸展筋力低下に対して神経筋電気刺激を用いた自主練習を実施した症例
偕行会リハビリテーション病院 丹羽 泰誠
- O3-20 認知行動療法に基づく介入によりADLが向上した精神症状を伴う食道がん術後肺炎の一例
名古屋大学医学部附属病院 佐藤 麻央
- O3-21 心機能障害とサルコペニアを呈した症例に対し栄養状態に合わせた負荷設定が奏功しADL自立に至った一経験
医療法人喜峰会 東海記念病院 佐田 稜弥
- O3-22 呼吸リハビリテーションにより肺移植へ橋渡しできた造血幹細胞移植後の慢性GVHDに伴う間質性肺炎の一例
名古屋大学医学部附属病院 細野 凌佑
- O3-23 薬剤調整の過程で血圧低値となり運動療法介入に難渋した重症心不全の一例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 田平椎以奈
- O3-24 精神機能に配慮し理学療法を実施した既往にうつ病を有するStanfordA型急性大動脈解離術後の一症例
医療法人杏嶺会 一宮西病院 佐藤 一真

口述【デビューセッション1】 第5会場 (ボードルーム)

11時20分～12時20分

座長：愛知淑徳大学 飯田 有輝
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 大西 順子

-
- O5-01 肺炎・誤嚥性肺炎患者における地域包括医療病棟での取り組み
蒲郡市民病院 鈴木 理渚

O5-02 行動変容にアクションプランを用いた間質性肺炎を有する肺炎随伴性胸膜炎患者の一例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 林 沙栄

O5-03 食道癌術後に早期リハビリテーションを実施しADLは維持されたが体重、
四肢骨格筋量が低下した症例
社会医療法人杏嶺会 一宮西病院 梅村 優貴

O5-04 心不全の増悪をきっかけにADLが低下した症例に対し活動量計を使用しADLが
改善した一例
名城病院 伊藤 泰雅

O5-05 重度低栄養と心不全リスクを有する大腿骨近位部骨折患者に対してリハ栄養の観点で
理学療法を実施した一例
医療法人桂山会 鵜飼リハビリテーション病院 刈谷 千尋

口述【デビューセッション2】 第5会場 (ボードルーム) 12時35分～13時35分

座長：中部大学 矢澤 浩成
二川病院 リハビリテーション科 佐久間俊輔

O5-06 プリエ動作時に足関節前方部痛を訴えたバレエダンサーの1症例
平針かとう整形外科スポーツクリニック 福島 夏音

O5-07 階段降段時の左膝内側部痛に対し前足部の機能改善が有効であった一症例
平針かとう整形外科スポーツクリニック 森 弘明

O5-08 転子部進展を伴う大腿骨大転子骨折に対する保存療法により早期荷重と良好な
機能回復を得た超高齢者の一症例
医療法人瑞心会 渡辺病院 安久 楓真

O5-09 人工膝関節全置換術後に残存した関節可動域制限と疼痛に対して反復末梢磁気刺激を
使用した一例
大隈病院 伊藤 啓示

O5-10 TKAの術式に着目し、早期介入を試みた一例

名古屋掖済会病院 長谷川直也

口述【デビューセッション3】 第5会場(ボードルーム) 14時25分～15時25分

座長：愛知医科大学病院 河尻 博幸

白山リハビリテーション病院 森谷 優也

O5-11 脳卒中軽度片麻痺患者に対しBESTestを評価し介入した結果、公共交通機関を含めた屋外歩行が自立した一例

鵜飼リハビリテーション病院 神谷 航志

O5-12 認知機能低下を伴う高齢女性に対する敏捷性を含む多面的介入の転倒予防効果

医療法人瑞心会 渡辺病院 大山 琴菜

O5-13 脳梗塞に対し機械的血栓回収療法後、急性動脈閉塞を発症し疼痛により理学療法に難渋した症例

公立陶生病院 林 智裕

O5-14 継続した神経学的評価により脳浮腫増悪の早期発見・機能回復の一助となった症例

名古屋掖済会病院 玉浦すみれ

O5-15 片麻痺を併存するステム周囲骨折再手術後症例における歩行再建と在宅復帰

医療法人瑞心会 渡辺病院 伊藤 温人

口述【デビューセッション4】 第5会場(ボードルーム) 15時40分～16時40分

座長：名古屋市立大学 堀場 充哉

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 石野 晶大

O5-16 失敗体験と行動フィードバックで病識形成を促した急性期脳卒中の1症例

社会医療法人財団新和会 八千代病院 夏目 浩作

- O5-17 Meta性脳腫瘍に対して放射線治療と理学療法を併用し、運動麻痺・意識障害から回復に至った一例
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 河西 佑典
- O5-18 栄養状態の変動がADL経過に影響した高齢頸髄不全損傷の一症例
医療法人珪山会 鵜飼リハビリテーション病院 笹山 大気
- O5-19 バランス評価に基づく理学療法介入により方向転換時の不安定性の軽減を認めた小脳性運動失調患者一例
医療法人珪山会 鵜飼リハビリテーション病院 高木琉希也
- O5-20 簡明なプログラムの考案により患者理解の促進も得られた正常圧水頭症の一症例
名古屋掖済会病院 岡崎 聖奈

ポスター1 ポスター会場 (Room 6 + 7)

13時00分～13時50分

座長：名古屋大学 赤澤 直紀

- P-01 脳性麻痺児における特定加工を施した機能性ウェアの着用が身体機能に及ぼす影響について
医療法人TRC たわだリハビリクリニック 城庵 雅人
- P-02 若年者における握力の有用性の検討
常葉大学 青山 満喜
- P-03 好きな靴が履きたいという思いに対して介入した脳卒中片麻痺患者を経験して
鵜飼病院 水谷 浩二
- P-04 推定身長と実測身長の違いの割合が歩行に与える影響について
老人保健施設 尽誠苑 辻 高晴
- P-05 回復期における積極的なリハビリテーションと家族指導により自宅退院に至った重症巨大脳出血症例
医療法人北辰会 蒲郡厚生館病院 中村 平太

ポスター2 ポスター会場 (Room 6 + 7)

14時10分～15時00分

座長：医療法人三仁会 春日井整形あさひ病院 桑原 基宏

- P-06 高校サッカー選手におけるメディカルチェック、疼痛発生状況と運動機能の関連
よだ整形外科 遠藤 祐生
- P-07 肩峰下インピンジメント症候群に対し僧帽筋上部線維の機能改善が有効であった一症例
吉田整形外科病院 田中 晃人
- P-08 肩関節周囲炎におけるリハビリテーション開始時可動域と終了時可動域の関連
よだ整形外科 榛地 佑介
- P-09 腰痛患者における理学療法終了後の再発リスク因子
日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) の結果に着目
豊橋整形外科 鷹丘クリニック 荒川 拓良
- P-10 成長期野球選手における腰椎分離症の有無による下肢・体幹機能の比較
わたなべ整形外科運動器クリニック 山田 恵太

ポスター3 ポスター会場 (Room 6 + 7)

15時20分～16時05分

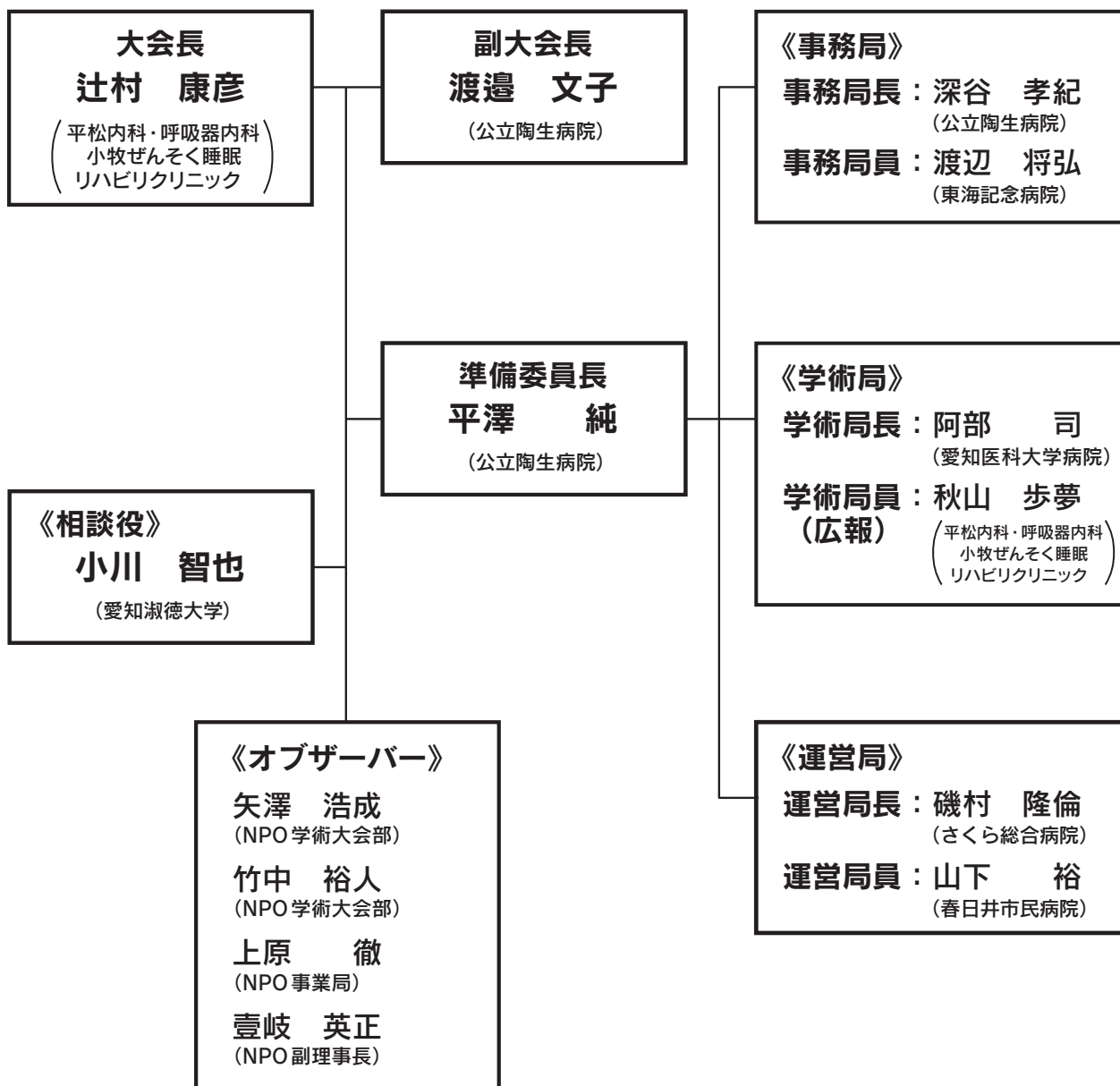
座長：国家公務員共済組合連合会 名城病院 櫻井 伸哉

- P-11 早期荷重プロトコルにおける内側開大型高位脛骨骨切り術後3ヶ月の臨床成績
肩とひざの整形外科 西野 雄大
- P-12 人工膝関節置換術術後に大転子部痛に対し膝関節伸展筋力向上が有効であった症例
名古屋整形外科人工関節クリニック 千葉 悠人
- P-13 演題取り下げ
- P-14 当院回復期リハビリテーション病棟における下肢切断患者の義足作製率と
歩行獲得率の実態
重工大須病院 阪 勇斗

P-15 転倒転落予防チャートの使用による転倒転落件数の推移
— 病棟専従の有無による比較 —

豊橋市民病院 内藤 善規

第34回愛知県理学療法学会 組織図



運営委員

氏名	所属	氏名	所属
辻村 康彦	平松内科・呼吸器内科 小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック	近藤 駿	小牧ようてい記念病院
渡邊 文子	公立陶生病院	成瀬 諒真	小牧ようてい記念病院
平澤 純	公立陶生病院	中島 章徳	小牧ようてい記念病院
深谷 孝紀	公立陶生病院	伊藤 照仁	小牧ようてい記念病院
渡辺 将弘	東海記念病院	竹田 智幸	小牧ようてい記念病院
阿部 司	愛知医科大学病院	吉川 凌矢	さくら総合病院
秋山 歩夢	平松内科・呼吸器内科 小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック	可児 達也	さくら総合病院
磯村 隆倫	さくら総合病院	平岡 大輝	さくら総合病院
山下 裕	春日井市民病院	伊藤飛勇万	さくら総合病院
小川 智也	愛知淑徳大学	直江 良子	さくら総合病院
矢澤 浩成	中部大学	西尾 翔大	さくら総合病院
竹中 裕人	常葉大学	松本 将年	さくら総合病院
上原 徹	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	尾藤 伸哉	さくら総合病院
壹岐 英正	医療法人瑞心会 渡辺病院	西尾 翔子	さくら総合病院
星野 高志	刈谷豊田東病院	名和 謙至	総合犬山中央病院
清島 大資	東海大学	後藤 文彦	東海記念病院
越智 亮	星城大学	鈴木亜沙美	東海記念病院
松田 文浩	愛知医療学院大学	芝 美波	東海記念病院
谷本 正智	国立長寿医療研究センター	水野 夏那	東海記念病院
海野 光信	鶴飼病院	武田 遥奈	東海記念病院
大橋 和也	豊橋創造大学	小原 一真	東海記念病院
川瀬 修平	総合上飯田第一病院	田村 将良	デイケアセンターしらゆりの里岩倉
松村 純	国立長寿医療研究センター	森谷 優也	白山リハビリテーション病院
大宮理華子	愛知医科大学病院	勝山 麻衣	白山リハビリテーション病院
吉村 悠花	愛知医科大学病院	大橋あずさ	白山リハビリテーション病院
都築 加純	愛知医科大学病院	皐 智大	白山リハビリテーション病院
鈴木 惇也	医療法人三仁会訪問看護ステーションぶらす	大平 純也	白山リハビリテーション病院
実岡 和紀	医療法人三仁会訪問看護ステーションぶらす	秋山千亜美	名古屋徳洲会総合病院
浅井 祐希	春日井市民病院	山本 未来	名古屋徳洲会総合病院
安田 勇士	春日井市民病院	大竹 浩史	名古屋徳洲会総合病院
北村 健人	春日井市民病院	寺嶋 修治	名古屋徳洲会総合病院
森島 宙舞	春日井整形あさひ病院	土田 彩加	名古屋徳洲会総合病院
宮崎 耕輝	春日井整形あさひ病院	児玉 杏樹	名古屋徳洲会総合病院
山森 圭祐	春日井整形あさひ病院	福田 翔	みずず訪問看護リハビリステーション春日井
宮地 庸祐	春日井整形あさひ病院	菅 伸太郎	みずず訪問看護リハビリステーション春日井

愛知県理学療法学会誌
プログラム集

2026年6月

発行 特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会
〒460-0002

名古屋市中区丸の内3-18-1

三晃丸の内ビル 601

TEL (052) 972-7211

理事長 石田 和人

編集 第34回愛知県理学療法学会準備委員
学術局 学術誌部

印刷 株式会社 山誠社